

### 職訓協

## 欠員補充・施設改修等を求める

### 要求書提出し鎌田労働課長と交渉



▲鎌田労働課長(写真手前右側)交渉に臨む職訓協執行部



▲課長に要求書を手渡す菅原職訓協議長(写真左)

職業訓練職員協議会は、15日、岩手県公会堂で、岩手県労働局との交渉を行った。交渉では、菅原利之議長(産業界技術短大水沢校)が、現状の課題に「宮古校は、2人の正規職員のうち1人が休む

ことになった。実技は有資格者が必要なため対応が出来るように3人体制を要望する。また定期人事異動で欠員が生じており、教習は生徒の人数も決まっているので、欠員は避けること、二戸校の欠員も解消を要望する」など人員配置等を中心に要望した。これに対し、鎌田課長からは「宮古校の授業、実習の様子を時間をとりに見に行きたいと考えている」など回答を受けた。また、施設の改修については「施設は、建設して、いずれも40年を経過しており、

老朽化し、漏電などが心配される。また、敷地の草刈作業もあり、職員の作業負担が多い。デザイン科の干渉は女子学生を呼び込みたいなど希望がある。私たちの仕事は学生を育てることとして、施設の整備を要望した。鎌田課長からは、財政状況が厳しいが、復興復旧が優先されるので、施設改修に理解を示した。



▲喜びの畠山さん

### 宮古市議補選・県職労推選

## 畠山茂さん当選

### 働く者の代表の議席確保を実現

6月18日告示・25日投開票の宮古市議会議員補欠選挙において、県職労はJF労働組合の畠山茂さん(新51歳・社会民主党)の獲得し、見事3位当選を果たした。今回の補欠選挙

で働く者の代表の議席を確保できた。当選した畠山さんは、「初めての選挙戦で厳しい闘いであったが、連合岩手構成組織を中心に支援をいただいた結果、当選を得ることができた。今後の議員活動で働く者や生活者の視点に立った政策を訴えたい」と決意を表明した。県職労は、今後も地方自治体に向けて政治闘争を強化していく。

## 共謀罪は現代版「治安維持法」

### 一阻止に向け果敢に闘う



▲「共謀罪」許さない6.3緊急県民集会で訴える木戸口参議院議員



▲「共謀罪」反対を訴えるデモ行進

政府による共謀罪の国会提出以降、県職労は平和環境センターに結集し、共謀罪阻止に向けて学習会への結集やデモ行進等で市民に訴えた。共謀罪が定める

組織的犯罪集団の定義が曖昧であり労働組合等も対象となり得ること、計画段階での犯罪となるため捜査機関による任意捜査が拡大し、憲法が定める内心の自由や

### 違憲の「共謀罪」は無効

#### 廃止に向けて新たなたたかいを

安倍政権は5月23日の衆議院での強行採決に続き、6月15日早朝に参議院法務委員会での審議を打ち切り、中間報告という禁じ手を用いて参議院本会議で強行採決する憲政史上類を見ない

果敢に取り組んできた。6月1日には平和環境センターの学習会、6月3日には現代版治安維持法であること、などから安倍政権による強行成立阻止に向けて集結し、見解を述べた。



▲「共謀罪」許さない6.3緊急県民集会で訴える木戸口参議院議員

鮮明となった。説明を放棄し、数の力で強行採決に踏み切る安倍政権の姿勢は国民無視、憲法違反そのものであり、断じて許されない。6月15日夕方には戦争させない!9条壊すな岩手の会主催の共謀罪強行成立の抗議デモを実施した。

# 岩手県職労

## 70年の歴史を振り返り「職場」が原点の運動構築を

### 県職連合第22回・県職労第118回定期大会

6月10日、県職連合10年・県職労70年となる定期大会を開催し、賃金改善、人員確保、職場改善及び政治闘争等の運動方針について多くの議員の補強発言を受け確立された。退職手当見直し及び人員確保闘争などの当面の闘争方針も決定。最後に歴史を振り返り、職場を原点とした運動構築に全力を挙げる大会宣言を採択し、小野委員長らの団結力により意気揚々と

分会を巻き込んだ取り組みが重要であり、当面の人員確保闘争に全力を挙げ、安倍政権の改憲議論の加速化や共謀罪法案の強行採決を巡り政治情勢が混乱している。憲法を守り、働く者の政治への転換のための政治闘争の強化が必要」とあいさつ。そして自治労岩手本部委員長、佐藤地公共闘議長(岩教組委員長)及び全岩手県本部来内本部長から来賓あいさつを受けた。

7月7日に県本部人員確保統一要求書を提出するとともに、来年度の定数要求時期(8月下旬〜9月)を見据え、各支部・分会での「分会基礎調査」による職場点検を踏まえ、必要な人員を各管理者(所属長など)に要求する職場要求を追求していく。併せて、今年度の任期付職員の任期の定めのない職員の選考採用枠の拡大と勤務実績を踏まえた採用とするよう、7月7日に知事へ要請書を提出するとともに、職場実態を踏まえた要求とすべく、6月25日の中央行動に結果として労働意欲が実感できる改善勧告を求めるとともに、人権を踏まえて地公共闘に結果として県人権での改善勧告を求めるとともに、6月18日告示・25日投開票の宮古市議会議員補欠選挙の宮古市議会議員補欠選

答弁に立つ小澤書記長

共謀罪の強行成立、森友・加計疑惑問題、PKO派遣問題など安倍政権の問題だらけの通常国会が幕を閉じた。終盤には憲政史上最大の汚点である共謀罪法案の強行採決の暴挙が繰り返された。違憲だらけの日本の最高責任者(自称)の暴挙で憲法施行70周年は最悪の状況に陥った。憲法に大きな傷を残した政権の罪は非常に重い。『付度』という言葉も脚光を浴びた。本来は肯定的な意味合いだが、巨大な権力のもとでは付度で国政の私物化をもたらした。真相を明かさず幕引きに終始した政権は国民主権を根底から否定する違憲そのものだ。世論調査では一時的に支持率は急落したものの、まだ支持層が多い。このままでは改憲と戦争に突き進む国に変わって、共謀罪の次は教育勸諭的な教育観を植え付け、従順な国民づくりに躍起になるに違いない。憲法は第12条で「憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」としている。国民自らが政権から防衛しなければ社会は変わらない。暴君から政治を取り戻すため立ち上がるべき時期にきている。



▲2017運動方針を賛成多数で決定した



▲開会に先立ち現職死亡された阿閉博明様へ献花



▲議長には及川浩一(北上右)、佐藤嘉彦(二戸左)を選出

### 来賓あいさつ



野中靖志・自治労県本部委員長



佐藤淳一 地公共闘議長



来内広幸・全岩手県本部部長



新任役員紹介  
小原 大 書記次長  
熊谷 勝文 中央執行委員  
佐藤 拓 中央執行委員  
加藤 邦庸 中央執行委員  
和野 樹史 中央執行委員  
堀田 昌宏 県職連合副委員長(工技センター労働委員長)

退任役員紹介  
鳥屋部 圭 中央執行委員  
小田嶋智昭 副中央執行委員長  
遠藤 治之 県職連合副委員長(工技センター労働委員長)

月2回刊=第1487号  
2017年6月30日  
発行日 毎月15日30日  
発行所 盛岡市内丸10番1号  
岩手県庁内  
岩手県職員労働組合  
印刷所 盛岡市上田二丁目17-4  
有限会社 シロ印刷企画  
一部 40円  
組合員購読料は組合費に含む

保障のことなら  
組合へ  
自治労共済本部  
詳しくは所属する組合まで